



公益財団法人 鳥取県国際交流財団

Tottori Prefectural International Exchange Foundation
公益財団法人鳥取县国际交流财团

とっとり国際通信

TOTTORI KOKUSAI TSUSHIN / 鸟取国际通讯

No. 113

Mar. 2015



写真 平成26年度「外国人のための防災セミナー」の様子
2014 Disaster Prevention Seminar for Foreign Residents
平成26年度「以外国人为对象的防灾讲座」的情景

目次 Contents 目录

TPIEFだより

02・03

- ・事業の開催報告
- ・財団の事務所を紹介します!「倉吉事務所」

特集

「在住外国出身者から見た鳥取県の“見どころ”発見!」

04・05

- ・在住外国出身者が好きな鳥取県の場所って?
- ・鳥取県は人の温かさ魅力のひとつ

民間交流団体の紹介

06

- ・鳥取華人華僑会
- ・琴浦町国際交流協会

鳥取県に暮らす

07

- ・小学生の昼食事情

JICAデスクよりお知らせ

07

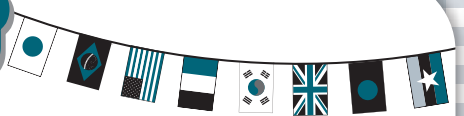
英語版・中国語版ダイジェスト

08-09

- Information in English and Chinese 英文版・中文版文摘
- ・Introducing TPIEF's Kurayoshi Office 財団の事務所紹介!「倉吉事務所」
 - ・Feature 特集
 - ・“Discovering Places to See in Tottori with Foreign Residents!” 「在住外国人认为“鸟取县值得一看”的地方!」
 - ・Living in Tottori “Primary School Lunches” 生活在鸟取之「小学生的午餐」

図書情報等

10



多文化の鳥取に出会おう

～フィリピン人、中国人、ムスリム、それぞれのコミュニティに学ぶ～

会場／とりぎん文化会館2階 第2会議室

共催／2014年度 鳥取大学地域貢献支援事業：鳥取大学地域学部仲野研究室



現在、日本には約200万人の外国籍住民が暮らし、鳥取県内にも約70カ国にルーツをもつ約4,000人の人々が私たちと共に生活しています。鳥取県は数の上では在住外国人が少ない地域ですが、多様性に富んでいる地域です。

多様な文化背景をもつパネリストのお話は、家族、ふるさと、仕事など様々な場面で困難を乗り越えてこられたものでした。フィリピンの皆さんからはあふれるような愛情のこもった思いを、中国の皆さんからは生きるエネルギーを、ムスリムの皆さんからは神の試験である人生を生きる思いを語っていただきました。特に、現在、国際的に注目が集まる中で、慈悲の教えであるイスラムはテロリズムを認めておらず、人間の命の価値を尊重しすべての人々の平和を願うものであり、正しい情報を知ってほしいと強調されました。



パネリストの皆さんのお話を共有することで、私たちの知らないいくつかの鳥取のすがたが見えてきました。みんなが大切にしているものを尊重しながら、よりよく生きていける社会がどうしたら実現できるか、すぐに答えが出ることではないかもしれませんが、共に考え学ぶことができる機会を今後も作っていきたいと考えています。

10/24
(金)

11/9
(日)

【西部】国際交流団体の紹介展示

会場／米子市立図書館2階 展示ギャラリー

国際交流活動を行っている民間団体が日頃の活動をパネル等で紹介する展示を行いました。

会場には、民間団体のほか、鳥取県立図書館からも国際交流ライブラリーと題した関連書籍の展示や貸し出しコーナーが設置され、多くの方々に国際交流について知っていただく機会となりました。

10月26日には併催事業として英国国際教育研究所から講師をお招きし、多文化共生についての講演をしていただきました。



11/24
(月) 振替休日

【東部】第26回タイムフェスティバル

～ Next Step 次の一步@世界へ～

会場／とりぎん文化会館

毎年開催するこのフェスティバルは、外国人にとっても県民の皆さんにとっても、世界を知り、異文化に触れ、交流や友達をつくる絶好の機会です。

今年度も、県内の国際交流・協力団体の活動紹介や在住外国人による自国の紹介、各国の食べ物や特産品の紹介、民族衣装の試着、音楽やパフォーマンス等、国際色豊かな、楽しいイベントとなりました。



12/7
(日)

【中部】くらしよ国際交流フェスティバル2014

～地球はひとつ☆みんなでつながる笑顔のWa～

会場／伯耆しあわせの郷

12回目のフェスティバルは、国際交流団体・鳥取短期大学・地域の外国出身者等のご協力とともに開催しました。当日は、体験ブースやステージパフォーマンスを楽しむ方、世界のおいしい料理やお菓子を堪能する方、じっくりパネル等を見学する方など、多くの来場者でにぎわいました。

毎年楽しみにしているという声を聞いたり、お目当てのブースに直行したりする方がいる様子を見て、フェスティバルが定着していることを実感しました。



12/13
(土)

鳥取県・江原道友交流20周年記念

「話してみよう韓国語」第10回 鳥取大会

会場／米子市文化ホール

10回目の節目となる今年は、米子市文化ホールを会場に熱戦が繰り広げられました。台本を暗記して2人1組で役を演じる…ちょっと変わったかたちのスピーチコンテスト。

緊張を吹き飛ばして楽しみながら発表する出場者と指導者や仲間たちの熱のこもった応援に、会場は終始笑顔と感動が絶えることはありませんでした。スピーチコンテスト後には韓国民俗芸能プンムルノリの演技を堪能し、大会が終了した後は韓国家庭料理を囲みながら交流を深めました。



11/23
(日・祝)

外国人のための防災セミナー



全国で自然災害に対する危機意識が高まる中、地域に住む外国出身の方々にも災害・防災について基本的な知識を持っていただくため、昨年度から「外国人のための防災セミナー」を開催しています。今年度は、基本的な知識に加えて、外国出身者自らが体験的に学ぶことのできる内容を取り入れながら各地で防災セミナーを開催しました。その中から西部地区で開催された様子を報告します。

大山消防署見学

大山町にある大山消防署の協力を得て、消防署見学をしました。参加者は、西部地区在住のアメリカ、中国、オーストラリア、フィリピンなど計11カ国の外国出身者27名でした。



AED(自動体外式除細動器)による救急蘇生法

消火器による初期消火体験



消防車と救急車の各装置の使い方等について説明



普段なかなか出来ない貴重な講習や体験に、参加者は興味津々で、見学中も次々と質問が飛び出していました。セミナー終了後には、参加者から「勉強になった」「また企画してほしい」といった意見が聞かれ、今後もこうした防災セミナーの重要性があると感じた1日でした。

財団の事務所を紹介します 【3回シリーズ】

第1回

第2回

第3回：倉吉事務所

最終回は「倉吉事務所」。平成13年に県中部総合事務所内に設置され、平成16年に同敷地内の別館(パスポートセンター隣)へ移転しました。事務所内の交流スペースは、日本語学習や外国出身者とのチャット等の場として活用され、特に水曜日は日本語クラスの開催やコーディネーター(中国語対応)配置により、外国出身者でにぎわっています。

▼ 中部パスポートセンターの看板が目印



▲ 入口を入って右側に倉吉事務所があります。図書の返却BOXもあります。



日本語学習の様子

▲ 交流スペース。日によってはいっぱいになることも!



▲ 毎週水曜日13:15~17:15は中国人コーディネーターがいます。



▲ 事務所の一面に広がる図書コーナー。

国際理解や世界の料理に関する書籍、日本語教材、英語・中国語の雑誌や新聞などがあります。最近では子ども向けの多言語の絵本や英語教材なども多数取りそろえています。本のリクエストも受け付けていますので、お気軽にお越しください!

在住外国出身者から見た



鳥取県の“見どころ”発見!

2020年に東京オリンピック開催が決定し、今後、日本全国に海外から多くの観光客が見込まれます。鳥取県内にも、たくさんの見どころがありますが、外国出身者の方々はどんな場所が好きなのでしょうか。また、鳥取県のもうひとつの魅力を紹介します。

■ 在住外国出身者が好きな鳥取県の場所って?

県内に住む外国出身者を対象に、鳥取県内でのお気に入りの場所についてアンケートを実施し、16の国と地域45名の方々にご協力いただきました。

場 所	理 由
鳥取砂丘	母国にはない。鳥取独特の場所。景色が変化する。
大山	空気がきれい。富士山のような形が好き。紅葉が楽しめる。
海(海岸、岸壁)	波の音が好き。夏は泳ぎ、冬は散歩する。夜は旅館の灯りで美しい。
湖山池、青島、東郷池	夕日がきれいで気持ちが落ち着く。

※アンケート回答(一部)

上位を占めたのは、やはり鳥取砂丘、大山といった名所でした。鳥取県が誇り、多くの日本人が認める、これら観光地が外国の方々にも気に入ってもらえたのは嬉しい限りです。一方、「好きな理由は?」と聞いてみると、その回答から日本人の観光客とは少し異なる視点が見えてくるようです。

日本は海に囲まれた国であり、特に私たちの住む鳥取県は、海と山に恵まれた地域です。このように身近に自然があると、その存在は無意識のうちに当たり前ものとなってしまいがちです。しかし、日本海の波も砂浜も、大山のかたちも木々の香りも、外国の方にとっては新鮮で魅力的な鳥取県ならではの“見どころ”なのですね。

今回アンケートにご協力いただいた方の出身は、アメリカ、中国、台湾、韓国、マレーシア、メキシコ、カナダ、エジプト、オーストラリアなど、まさに世界各地から来県しているの方々による意見でした。このアンケートを通して、鳥取県の魅力を改めて実感できたような気がします。

こんな場所もありました

- ・ 鳥取環境大学 (英語の本が多い)
- ・ 安長神社 (行くとエネルギーがわく)
- ・ 北栄町の風力発電 (景色がきれい)
- ・ 倉吉市役所 (すばらしい建築家による美しい建物)
- ・ 加茂川 (静かできれい) など

財団の 外国出身 職員に聞いてみました!

「私のお気に入りの場所」

リョウ ギョクラン
梁 玉蘭 ▶
(中国)

『海辺』

わたしは中国の大陸生まれ、大陸育ちなので、海を見たことがありませんでした。日本で初めて海を見て、その広さに魅了されました。今もよく海辺を散歩します。

私の海辺の楽しみ方は、特に夏の夜、海辺の温かい砂に座って星空を眺めながらボーっとすること。私にとって、すべてのことを忘れる瞬間です。

モロム ジャムツ・
ビャンバ
ジャルガル ▶
(モンゴル)

『図書館と本屋』

図書館と本屋によく行きます。本から様々な情報を得ることで、鳥取での生活が更に楽しく感じられるようになるからです。まだモンゴル語で書かれた本は見たことがありませんが、日本語で書かれたモンゴルの昔話やモンゴル紹介の本を借りたり買ってきて、娘たちに読んであげることで、私の母国のことを知ってもらいたい気持ちもあります。図書館と本屋は、私たちのような外国出身者に欠かせない存在です。

ラホウ チェミ
羅房 婕美 ▶
(台湾)

『レークサイド大栄』

鳥取県は、自然がいっぱいあって、とても住み心地のいいところだと思います。その中でも、北栄町にある、子どもから大人まで楽しめるレジャー施設「レークサイド大栄」は好きで、子どもと一緒によく出かけます。豊かな自然に囲まれているので、日本海を一望しながら長いローラー滑り台で遊んだり、グラススキーも体験できます。無料で一日楽しめますよ!

チョウ ウビ
張 雨薇 ▶
(中国)

『夢ごみち(鹿野町)という日本家庭料理屋さん』

古民家を改装したお店です。地域のお母さん方が作っている、季節に応じた鹿野産の旬の食材を使ったお料理の数々を味わえます。特に、「すげ笠御膳」(写真)が出された時はインパクトがすごかったです!もちろん丁寧に作られた繊細な料理なので、言うまでもなく「敷ウマ!」です。



鳥取県は人の温かさの魅力のひとつ

鳥取県の魅力は、様々な“場所”だけではありません。人々の心の温かさの魅力のひとつです。

海外から研修などで短期間、来日する場合、滞在先にホテルや旅館だけでなく、一般の家庭で過ごすホームステイが含まれるプログラムもあります。その中で、鳥取県のホストファミリーによるホームステイの受け入れは外国青年に好評です。

来日する外国青年を受け入れ、ホストファミリーを紹介する活動などを行っている民間交流団体の方と、昨年初めてホストファミリーを経験された方にその様子を紹介させていただきます。



「鳥取ならではの!家庭の温かな“おもてなし”」

とっとり青友会 代表 **河崎 忠義** さん

とっとり青友会では、主に内閣府が主催する青年国際交流事業の地方プログラムの受け入れを行っており、過去5年間で10事業、延べ20カ国、約250名の若者を鳥取県へお迎えしました。

実は、この数字、国内各都道府県に存在する受入組織のなかで全国一となる実績です。

なぜ、内閣府は鳥取県にこれだけの国際交流事業を委嘱されるのか? 答えは、鳥取でのホームステイ、受け入れ家庭の温かい“おもてなし”が外国青年から非常に高い評価を受けているに他ならないからです。

内閣府事業のホームステイは2泊3日の短期間が主で、日本の家庭を経験するには充分ではありませんが、外国青年は、異口同音に「ホストファミリーはとても優しく、所作が丁寧で、青年の母国に高い関心を持ってコミュニケーションを取ってくれる」と話します。

子ども(幼児から学生まで)はコミュニケーションの天才で、気持ちを体で表現することによって言葉の分からない外国青年との間に、短時間で友情が形成できるようです。また年配の方は、日本文化に戸惑いを感じる青年にさりげない気配りをされる姿が尊敬を得ています。

更に鳥取の特徴として、折り紙をしたり、歌を教えたり、浴衣を着たり、近所の人たちと料理を作って食べたり、学校や近隣施設の行事に参加したりと、家庭の楽しみかたが豊富なことがあります。これが意外になかなかないと内閣府関係者は話します。ホームステイ中、観光地

巡りとショッピングが主な過ごし方になりがちで、疲れたとの評価も少なくないとのこと。鳥取では、ゆったりと落ち着いて過ごすことができるようです。

異文化交流において、この事はある意味、究極的な「おもてなし」のかたちだと私は思います。

歓送会や、空港での別れ際には、涙ながらに別れを惜しむ姿が必ず見られ、いつも感動します。この出会いが実りあるものだったと確信し、心が温まる場面です。

私たちは毎回、ホスピタリティあふれる素晴らしいファミリーにささえられて受け入れを継続することができています。言葉では尽くせない感謝の気持ちでいっぱいです。

全てのホストファミリーの皆さまと、鳥取県国際交流財団の皆さまに厚く感謝申し上げます。

これからもよろしくお願いいたします。



※「とっとり青友会」…鳥取県が実施した青年海外研修事業の既参加青年による国際交流を中心に活動する組織として発足。国際交流を中心に、環境問題、青少年育成、福祉の分野などでボランティア活動を行っている。

「初めてのホームステイ受け入れを経験して」



境港市 **安原 真弓** さん

2014年11月、内閣府「東南アジア青年の船」地方プログラムに参加する青年をホストファミリーとして受け入れました。

以前から外国語や異文化交流に興味を持っていたので、ホームステイについても興味はありましたが、きっかけもなくタイミングも合わなかったため、受け入れたことがありませんでした。しかし今回、高校生と中学生の娘の積極的な希望と、私自身の「子どものたちの世界観を広げたい!」という思いから挑戦してみることにしました。

我が家に滞在することになったのはシンガポール人と日本から参加の女性2人でした。滞在期間は2泊3日。初めての「ホームステイ受け入れ」には、ちょうどいい期間だったと思います。

受け入れが決まってから、私なりに考えて、まず布団や枕のカバーを用意しました。その後、受け入れの担当団体の方に、滞在する青年に食べられないものがあるかどうか教えていただくこともできました。これにより心配していた夕食の献立づくりも、予め考えておくことができました。



(写真:下段の中央左がご本人。上段の右側、下段の右側が青年たち)

実際に受け入れがはじまると、日本人の私が想像もしなかったハプニングが発生します。例えば、お風呂。シンガポールの方が服を着たまま、着替えを抱えながら脱衣所を通り過ぎて、そのまま浴室に入ったのです!彼女にとっては、脱衣所が「衣服を脱ぎ着する場所」だと分からなかったのですね。幸い、もう1人の日本人の方に脱衣所の使い方を説明してもらうことで上手く脱衣所を使ってもらうことができました。また、自宅の中にある神棚を指さして「これは一体何ですか?」と質問された時には説明の難しさを感じました。

このように外国の方から出る素直な質問に答えていく中で、私たち自身の生活習慣を再認識することができたように思います。これが異文化交流の楽しさなのですね。彼女たちと一緒に過ごした期間は、3日間と短いあいだでしたが、今でも連絡を取り続けています。

初めてのホームステイ受け入れが終わった今、次の受け入れが楽しみです!これを読まれている人の中で、もし「受け入れに興味があるけど、

実際の受け入れとなるとなかなか…」と迷っている方がいましたら、滞在する外国青年たちが特別だと思わず、親戚の子が泊りに来るような気持ちで家族と一緒に楽しんでいただけたら、こんなに身近な国際交流はないのです。



鳥取県国際交流財団
国際交流ボランティア
「ホストファミリー」募集

当財団では、県民の皆様とともに国際交流をすすめていくため、各種ボランティアを随時募集しています。ホームステイの受け入れにご興味のある方は「ホームステイボランティア」にご登録いただくことができます。詳しくは各事務所でお尋ねください。